

テーマ：百貨店売上高（2007年2月）  
 ～ 1-3月期の消費も案外強いかも？ ～

発表日：2007年3月19日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部  
 副主任エコノミスト 新家 義貴  
 TEL:03-5221-4528

## ○ 1月に続き、2月も好調

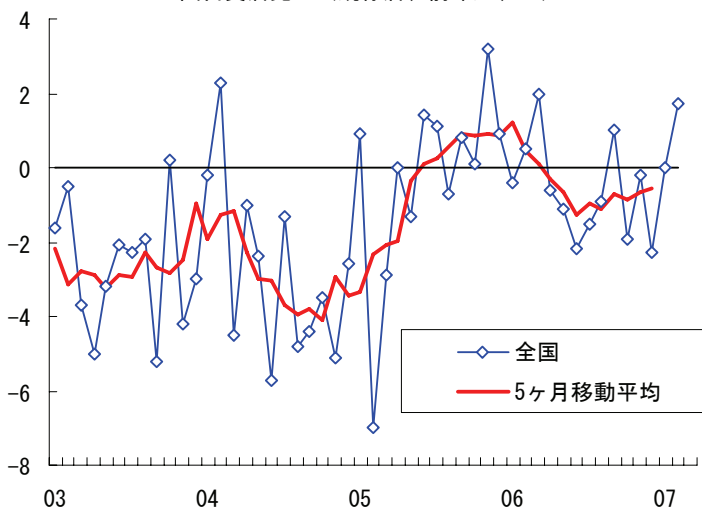
本日発表された2月の百貨店売上高（全国）は前年比+1.7%（店舗数調整後）と、1月（同0.0%）から伸びを高めた。1月の百貨店売上高は、初売りやクリアランスセールが好調に推移したことから12月と比べて大きく改善していたが、2月も引き続き強めの結果となった。12、1月には、暖冬の影響から冬物重衣料の売れ行きが低調だったが、2月には逆に春物衣料の前倒し購入を誘うことで、暖冬がむしろプラスに作用した模様だ。これは、事前に公表されていた2月景気ウォッチャー調査とも整合的な動きだ。なお、2月については京都、福岡での閉店セールや、改装効果、外商大口需要などにより押し上げられている面もあるようだが、それを幾分差し引いたとしても2月の百貨店販売が強いことには変わりない。

なお、季節調整値（当社試算）でみると前月比▲2.5%と減少しているが、これは1月に同+7.4%と急増した反動に過ぎず、むしろ堅調な結果である。1-2月を均してみれば、10-12月期対比で+3.6%と大幅な増加だ。百貨店販売は昨年末にやや弱含んだが、年明け以降は好調に推移している。

このように、1、2月の百貨店販売は堅調だった。仮に3月にある程度落ち込んだとしても、1-3月期が10-12月期対比で強めになることはほぼ確実だ。百貨店販売は個人消費のごく一部に過ぎず、これをもって消費全体を語ることは慎むべきではあるが、良いニュースであることは間違いない。

1-3月期の個人消費は、10-12月期の高い伸びの反動もあって低迷するとの見方が筆者を含め多かった。しかし、1月の個人消費が全般的に好調だったことに続き、2月も良好に推移する可能性が出てきたことで、1-3月期もまずまずの伸びを示す公算は徐々に強まっている。GDP全体でも、今のところ大きく押し下げに寄与する需要項目は見当たらない。1-3月期のGDPも潜在成長率を上回る成長が実現する可能性は十分あるだろう。

全国百貨店売上（既存店、前年比、%）



2000年=100 百貨店売上高（季調値）

